

発行 NPO 法人 うえるかむ権利擁護サポートセンター船橋

# うえるかむ通信

〒273-0046 船橋市上山 1-157-4 (カメラハウス2階) 発行責任者 赤津 保子  
 船橋法典駅下車徒歩8分 Tel047-710-7045 / IP 050-3496-9981 / fax047-419-2655  
 ブログ <http://blog.goo.ne.jp/watowawelcome/> Email ; qqxt3s29n@canvas.ocn.ne.jp



絵 西澤彰氏 群馬県館林市在住

## 《セスナが飛んできた》

西澤悦子(西澤彰氏のお母様)

我が家の45歳の息子は、「セスナ機大好きな自閉症」です。かつて地域にあったセスナ機の空港「館林飛行場」に毎日通い、その離着陸の期待の美しさの虜になり、描き溜めた「セスナ」の絵は膨大な数になっています。

青春真っ只中の頃は陽光園(注通所施設)から飛び出し、格納庫に入り込み、出てきません。担当の職員さんは毎日走って彰を迎えに行き、空港の方に詫びてきます。時には、お気に入りの機体番号が見えないと我が家は大変です。「4005どこ行った」「3353どこ行った」と言い続けます。私が、自分の判断で「10月〇日にはかえてくるよ」と言っても、彰は「嘘発見機?」ですから、疑わしい目つきで私を見つめて側から離れようとしません。こうなったら真実を確かめる以外に方法はありません。「そのうち」とか「きっと」とか、あいまいな言葉は重い自閉症の彰にとっては、とても不思議な世界のようにです。

意を決して、空港に電話をします。

「いつもご迷惑をおかけしております。陽光園の西澤彰の母です。4005どこ行った!と言って落ち着きません。教えていただけませんか?」

すると「よく見ているんですね。4005は今、調布空港にいます。9月12日には戻りますよ」と、丁寧に教えてくださいます。私と空港のやり取りをじっと聞いていた彰は「これは信用できる本当の話だ」と思ったらしく、「おじさん言ったからいいね」と言って、爪先立って、飛ぶように、私から離れていきます。

残念なことに、現在は「館林空港は閉鎖になり、茨城県竜ヶ崎市に移転してしまいました。」

ところが、日曜日の十時過ぎになると、なぜか息子は2階のテラスに上がり、デジカメとテープレコーダーを持って、何やらスタンバイしています。そして「飛行機きたね。竜ヶ崎からきたね」といいます。私の聴覚や視覚では確認できません。

そのことを竜ヶ崎の空港の方にお話ししてみました。

## 宮代理事長に伺いました

西澤さんは館林在住の男の子二人のお母さん。グループホームを作ろうと計画。当所行政からは「親が作っちゃダメ。利用が偏るから」と認めてもらえず。この壁が、中々しぶとかった。それでもあきらめず、自宅の隣地にととう建てられ、今運営は地元の法人に。ご兄弟ともにそこに暮らしていらっしやいます。以前「手をつなぐ」の編集委員を一緒にやっていました。今でも日曜日になると西澤さんの家の上をセスナ機が飛んでくれているそうです。

★群馬県館林市の西澤悦子様から  
宮代理事長に寄せられた  
メッセージを転載しました。

すると「そうでしたか。あのお子さんですね。確かに日曜日の十一時三分前頃には、毎週太田市に用事があるの、館林方面を通過します。今度、お宅の上を飛ぶようにパイロットに話しておきます」とのご返事をいただきました。

3月15日、日曜日。あの聞き慣れた軽快なエンジン音とともに、懐かしい機体がどんだん我が家の上空に近づいてくるではありませんか。そして、1周2周3周・・・。

「ありがとう!! ありがとう!!  
パイロットさん」

西澤彰氏は、今もセスナの絵を描き続け、横浜市民ギャラリーあざみ野のあざみ野コンテンポラリーVol.4 スーパーピュア展に出展するなどご活躍中です。

## 「障害者入所施設での高齢化問題とパーソナルアシスタント制度」

さざんか会 のまる施設長 中川公二

平成12年4月に開設した【のまる】という障害者支援施設（入所定員35名）で働いて今年で丸15年が過ぎました。現在ご入居されている方の約半数近くは開設当初からいらっしやいます。当時25歳だった方は40歳になり、35歳だった方は50歳になられます。主に知的に障害を持つ方がご入居される施設での「高齢化問題」が【のまる】にも少しずつ迫ってきました。しかしながら50歳の方に対して「高齢化の問題」という言葉を持ち出すことにはかなり抵抗があります。「人生50年」時代から「人生80年」時代へ。歌手の郷ひろみさんが60歳前とお聞きすると、「ウハヤー」です。世間からは50歳などまだまだ若造なのでしょう。

にも関わらず「高齢化の問題とは何事だ!」と言いたい入居者の方は沢山いらっしやると言います。誰から見た「高齢化」なのでしょうかね。

しかしながら50歳という年齢を迎える方にとって「これまでの20年」と「これからの20年」ということを考える場合、健康状態を含めてやはり「これまで通り」とはいかないかなと思うのです。

自分のことは自分で決めるということに議論の余地はありませんが、自分のことだけ自分だけでは決められない、決めにくいことも増えてくるのかなと思ったりもします。家族や友人等に相談して決めること。悩み事の内容に応じた専門家からアドバイスを得て決めること。そんなプロセスを経て自分の意思が支えられるようになるのかなと思います。

入所施設はそこで暮らす人たちが働く者が、社会や地域の情報が得にくい状況があります。特に働く者にとっては日々の基本生活への介助や介護に追われ、そこで暮らす人の夢や想いに気づきにくい課題があります。（働く者自身の夢や想いも?）どうやら暮らし方にも働く者にも、自分の意思を支えてもらうための仕組みが必要なようです。

そのイチバンの仕組みは利害関係のない立場の方の出入りと、ヒヤリングと思います。（カウンセリングではありません。）「どうして?」と聞いてくれる人が欲しい。これがイチバン。行政職でない方がいい。福祉業界でない方がいい。働く者にはそこまで必要ないと思いますが、暮らす人に一人にひとり。

意思決定を支えるためのパーソナルアシスタント制度とでもなるのでしょうか?

この制度ができれば、何となく「入所施設での高齢化問題」は随分解消される気がするのです。「感で物言うな」とお叱りを受けるかもしれませんが、感で思います。いつかやってみたいです。

## 無料個別相談会 岩田康孝弁護士

次回7月9日(木)の予定  
弁護士相談会は1回30分。  
アドバイスや具体策と一緒に  
考えて頂きます。  
悩みを話すことで、前向きになり、お元気になって  
いただくことが目的です。  
お気軽にお申し込みください。ま  
ずは電話かfaxで  
お問い合わせください。

☎ 047-710-7045 📠 047-419-2655

## お知らせ

岩田弁護士の講演会を今年度中に開催する予定です。

\*岩田弁護士による個別相談、一回目は無料です。難しい法律などの案件は、岩田先生が自ら引き受けて下さるので、安心です。

\*6月1日(月)の「Fourside 利権委員会」に、岩田弁護士に成年後見制度について話して頂きます。会場は、けいよう会議室。参加自由です。

\*船橋市には、フェイスペイン5階に相談室があり、知的障害者相談員が待機していますので、そちらもご利用下さい。電話予約が必要です。